



長崎大学医学部

医学科

2027



NAGASAKI UNIVERSITY
SCHOOL OF MEDICINE

長崎大学医学部医学科の基本理念

長崎大学医学部医学科の開祖ポンペ・ファン・メールデルフォールトは、長崎において、日本で初めて患者を主体とした医療を実践し、わが国の近代西洋医学教育を創立した。本学科は、ポンペの言葉「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」を建学の基本理念とし、深い医学知識と豊かな創造性、高い倫理観を身につけた医師及び医学者を育成することを目標としている。この目標を達成するために、医学科では、1) 基礎医学、臨床医学知識の総合的理解（医学を学ぶ）、2) 医科学的創造性の養成（科学を学ぶ）、3) 医師としての社会的責任感と人間性の確立（人間を学ぶ）を重視した教育を実施する。



学部長挨拶



長崎大学医学部長
原 哲也

長崎大学医学部の開学は1857年とされています。この年にオランダ国軍医 J. L. C. Pompe van Meerdervoort が長崎奉行所西役所医学伝習所において、松本良順をはじめとする諸藩から集まった医師達に近代西洋医学の教育を始めました。1861年には、日本で初めての西洋式近代病院である小島養生所が誕生し、臨床医学の教育も始まりました。1945年の原爆投下により、長崎大学医学部は壊滅的な打撃を受けましたが、多くの先人の献身的な努力により、目覚ましい復興を遂げました。

医学部は、ポンペの言葉である「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」を建学の基本理念としています。そして、豊かな人間性、高い倫理観、論理的な思考力、チームの一員としての協調性を身につけた医療人の育成を目指しています。医学部には医学科と保健学科があります。医学科では医師の育成を、保健学科では看護学、理学療法学、作業療法学の専攻において、看護師、理学療法士、作業療法士の育成を担っています。

長崎大学は「Planetary Health（地球の健康）に貢献する大学」を目指して、グローバルヘルス、グローバルエコロジー、グローバルリスクの3つの観点から全学的に取り組んでいます。医学部でも「人の健康、地球の健康、あなたの未来 RAPID ACTION！」のスローガンを掲げ、教育、研究、診療に活かしています。また、我が国で最も多くの離島を有する県の大学として、地域医療を支える重要な役割を担っています。離島実習や地域包括ケア実習などを通して、地域医療を深く学び、地域で活躍する人材の育成に力を注いでいます。さらに、世界的に評価の高い感染症研究や放射線医学に加え、医学部、歯学部、薬学部が連携して医歯薬学総合研究科を形成し、優れた生命医学系系の研究を行なっています。

長崎大学医学部は、学生の一人ひとりが目指す分野で活躍できるよう、教職員が一丸となって支援します。長崎で地域を学び、地域そして世界に貢献できる医療人となるために、共に学び、共に成長することを期待しています。



日本近代医学の源流 がここに

写真資料 / 小島養生所 (長崎大学附属図書館所蔵)

CONTENTS

01 学部長挨拶

02 医学部医学科のカリキュラム

04 特色のある教育

08 先端医療センターのご紹介

09 在学生、卒業生からのメッセージ

10 長崎大学病院

11 関連施設紹介

13 入学科・授業料・奨学金制度

14 入試枠について

15 医師国家試験対策について

16 サークル活動

17 Campus Map / アクセス

医学部医学科の カリキュラム

医学科の 特色あるカリキュラム

【医学科カリキュラムの重点項目】

- ① 医科学領域における高い倫理観を身につけるための科目（医と社会）を1年次より4年次まで開講する。
- ② 医学領域における国際的な人材を育成するために医学英語を1年次より4年次まで開講する。
- ③ 医科学領域における創造的能力・理論的思考力を修得するために3・4年次のリサーチセミナーにおいて基礎配属を行う。

多様なカリキュラム

【研究医枠】

基礎医学研究等に興味が有り、医学の発展に携わるという目標とそれを貫く強い意志を有する人を求める。入学後は、以下の4つのプログラムのいずれか1つに所属し、医学研究に必要な基礎知識の習得や研究内容の発展を行い、将来の研究医に必要な基礎を築き、卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（医学系基礎研究分野）に進学する。

- ① 研究医プログラム
（基礎医学研究に貢献する者）
- ② 熱帯医学プログラム
（熱帯医学の基礎研究に貢献する者）
- ③ 国際保健プログラム
（国際保健医療、放射線健康科学分野に貢献する者）
- ④ 法医学プログラム
（法医学研究に貢献する者）

【地域枠】

地域医療ゼミにより地域医療に関する理解を深め、将来長崎県の地域医療に貢献する臨床医を育成する。

教育目標

1年次

医学の基礎と医学における倫理の重要性を学ぶ。

医と社会 I
【入門科目】
医科生物学入門
【正常構造と機能】
人体構造系 I
生体分子系
発生・組織系
内臓機能・体液系 I

2年次

医学基礎と共に疾患について学ぶ。

医と社会 II
【入門科目】
Communication Skill in English
医学史・原爆医学と長崎
医学統計学
【正常構造と機能】
神経・感覚器系
人体構造系 II
動物性機能系
内臓機能・体液系 II
分子遺伝系
【疾患総論】
感染系
免疫系
病理総論系
腫瘍系
放射線基礎医学
基礎医学TBL
薬理系
【疾患各論】
血液・リンパ系
循環器系
感染症系

3年次

疾患について学ぶと共に基礎研究について実習を行う。

医と社会 III
【疾患各論】
呼吸器系
内分泌・代謝・栄養系
消化器系
運動系
腎泌尿器系
生殖系
精神系
免疫・アレルギー系
脳・神経系
皮膚系
視覚系
耳鼻咽喉口腔系
【診療の基本】
放射線医学
【基礎研究実習】
リサーチセミナー

4年次

疾患と共に診療の基本について学ぶ。

医と社会 IV
【正常構造と機能】
人体構造系 III
【疾患各論】
小児系
【医学・医療と社会】
法医学系
衛生学・臨床疫学
公衆衛生学
地域医療学・医療情報学
【診療の基本】
臨床検査医学
外科治療学
救急医学
総合診療学
臨床薬理学
東洋医学
総合病理学
リハビリテーション医学
診断学
臨床推論PBL
【臨床実習】
臨床実習

5年次

疾患と診療の知識をふまえて臨床実習を行う。

【臨床実習】
臨床実習
高次臨床実習 I

6年次

疾患と診療の知識をふまえ高次の臨床実習を行う。

【臨床実習】
高次臨床実習 II
海外留学も可能



第1回
卒業試験

第2回
卒業試験

第3回
卒業試験

医学英語	
医学ゼミ	
教養教育	
地域医療ゼミ ※地域枠	
研究室配属実習 I ※研究医枠	研究室配属実習 I ※研究医、法医
熱帯医学ゼミ ※熱研	研究室配属実習 I ※研究医、熱研、法医
国際医療ゼミ ※国際枠	研究室配属実習 I ※研究医、法医
	グローバルヘルス特論 ※熱研、国際
	研究室配属実習 II ※研究医枠
	高次臨床実習の一部において「研究室配属」等 ※研究医枠

特色のある教育

通常の基礎～臨床の講義に加えて、当医学科では以下のようなユニークな取組を行っています。

特色 01 地域基盤型医学教育



長崎大学は全国に先駆け地域で学ぶ医学教育に取り組んできました。今では長崎県内全域の地域中核病院を教育拠点として診療所や保健施設でも学ぶことができる地域基盤型教育を実践しています。その学びは1年から6年まで一貫しており、1年次に五島や平戸地区での早期体験実習を経験でき、2年次は高齢者施設、3年次は長崎市内の診療所の見学実習、そして4・5年次では上五島、下五島、対馬、壱岐のいずれかに1週間滞在して「離島医療・保健実習」を行います。さらに、5・6年次に、県内全域にある拠点病院のなかで地域密着型の臨床実習を4週間行うこともできます。また特色として、事例学習や実習現場で保健学科や歯学部・薬学部などの医療系学科、そして福祉系大学とともに学ぶ機会をととして多職種連携の素養を身につけ医師として地域で活躍できる力を養います。



特色 02 リサーチセミナー

将来臨床医となり、日々患者さんを診察し治療する中においても、科学的、論理的な考え方、批判的なものの見方を身につけることは極めて重要です。医学の歴史を振り返ると、そのような医師達が新しい疾患概念を組み立て、未知の疾患の病因を解明し、新たな治療法を開発してきました。そこで、長崎大学医学部医学科の学生は、3年次に2ヶ月間希望する研究室に配属され、毎日朝から夕方まで研究を体験するリサーチセミナーというプログラムがあります。教員からマンツーマンの指導を受け、論文を読み、情報を集め、問題に対する仮説を立て、綿密な実験計画を立てて実験を行いその仮説を検証します。希望者には海外の研究室でリサーチセミナーを行う機会も用意されています。また、プレゼンテーション能力を養うために2日間かけて研究成果発表会を行います。さらにリサーチセミナー終了後もその研究室に通い、学会で発表したり英語で論文を書く学生もいます。



特色 03 国際色豊かな教育環境

医学に特化した英語教育



医師には、診療や研究のどちらにおいても、世界の最新の情報をすばやく理解し、発信する力が求められます。そのためには英語力がとても重要です。

医学科では、自分のペースで専門的な英語を効率よく学ぶことができるような様々な手法を導入しています。また、授業では学んだ言葉を使って発表やディスカッションの練習も行います。

英語ができる医師は、海外での医療活動や留学、国際学会での発表など、世界中で活躍できます。私たちは、国際的に通用する医師・研究者の育成を目指しています。



3人に1人が卒業までに留学を経験

医学科では3年次のリサーチセミナー、6年次の高次臨床実習中に、海外の大学でこれらのカリキュラムを受講できるプログラムを提供しており、それぞれ約30名ずつがこのプログラムを利用して、海外留学を経験しています。

医学部在学中にカリキュラムの一環として海外に留学することで、医師としてのあり方や今後の進路の検討にも大きな影響を与え、学生からも大変好評なプログラムとなっています。

長崎大学医学部医学科の主な留学先 ～多種多様な留学先～



留学経験者からのメッセージ

森田 峻介

MORITA Shunsuke

令和5年度入学

- 留学先 ケニア / ケニア中央医学研究所
- 留学期間 2026年1月~2月
- 留学目的 リサーチセミナー
- 現在の所属 長崎大学医学部医学科4年



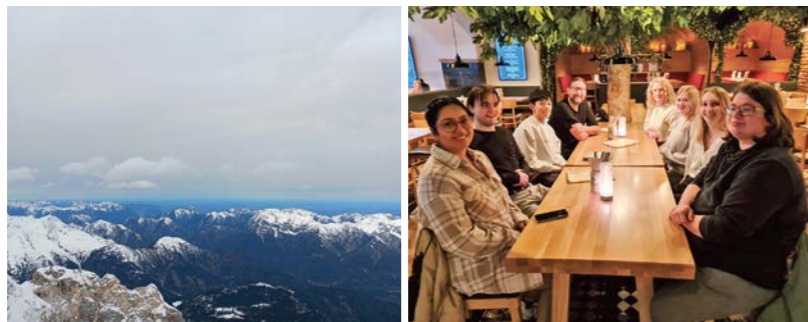
ケニアにて約2か月間、感染症に関するフィールドおよびラボ活動に参加しました。長崎大学熱帯医学研究所は海外に複数の研究拠点を有しており、その一つであるケニアでは長年にわたり感染症研究が行われています。今回、そうした拠点を基盤として現地での活動に参加し、住血吸虫症・マラリア・結核といった感染症の流行地域を実際に訪れ、研究の現場に触れる機会を得ました。

活動を通して強く感じたのは、感染症が単に病原体の問題ではなく、人々の生活や環境と深く結びついているという点です。教科書で学ぶ内容とは異なり、現場では環境や社会的背景によって研究の進め方や結果の意味が変わることもあり、その難しさと同時に面白さを実感しました。

このような経験は長崎大学という環境だからこそ得られたものであり、実際に現地へ赴くことで自分の視野が大きく広がったと感じています。感染症に興味がある人はもちろん、そうでない人にとっても、世界の見え方や考え方に変化をもたらすような価値のある経験になると思います。

ケニア中央医学研究所でのリサーチセミナー

ヴェルツブルク大学でのリサーチセミナー



皆さんは今、長崎大学に進もうかどうかを悩んでいる最中だと思います。私の場合5年前のあの決断は間違っていなかった、と胸を張って言えます。それは、この留学があったからです。そんな留学の話は今から書きます。

私は海外リサーチの機会を利用して約2か月間ドイツのヴェルツブルク大学に行き、iPS細胞に関する研究を行いました。現地では特殊な手技や装置を使って実験を行うことができ、とても充実した期間でした。また、あちらの生活では、初めて目にするものや体験することばかりで、慣れるまでは大変でしたが、周囲の人の助けも借りながら楽しい日々を過ごすことができました。これは、長崎大学とヴェルツブルク大学が交換留学を行っていることもあり、お互いの留学生をサポートする体制が整っているために、分からないことや不安なことは現地の担当の方に気兼ねなく聞くことができたためです。加えて、学外でも多くの時間があり、毎週末ドイツ国内の観光地を巡るのはいい思い出です。

皆さんも長崎大学に入学された際には、留学に行かれることをお勧めします。

満井 泉理

MITSUMI Senri

令和3年度入学

- 留学先 ドイツ / ヴェルツブルク大学
- 留学期間 2024年1月~3月
- 留学目的 リサーチセミナー
- 現在の所属 長崎大学医学部医学科5年



信定 こはる

NOBUSADA Koharu

令和元年度入学

- 留学先 台湾 / 国立台湾大学
- 留学期間 2024年4月~5月
- 留学目的 高次臨床実習
- 現在の所属 令和6年度卒業



皆さん、はじめまして。私は臨床実習の一環として、国立台湾大学病院（NTUH）で実習を行いました。NTUHは台湾で最大規模の大学病院で、特に小児科は独立した小児病棟を持ち、その規模は約300床を誇ります。豊富な症例数や高度な専門性に強く惹かれ、ここでの経験は医師としての確かな土台になると確信し、迷わずNTUHを選択しました。現地では、幅広い疾患を経験できました。小さい体をいっぱい使って、一生懸命生きる子どもの姿に励まされ、時には、最重症の症例を経験し、最先端の医療でも救命し得ない幼い命に、強い自覚と使命感を覚えました。また、中国語が分からず家族の会話を理解することはできませんでしたが、人工呼吸器に繋がれる大切な我が子を目の前に、涙ながらに訴える家族の顔は忘れられません。このような状況で、医療者として彼らに貢献できることは何だろうか。未だ臨床経験のない私にとっては難しい、答えのない課題のように感じることもありましたが、医療の限界に真摯に向き合い最善を模索し続ける大切さを痛感しました。長崎大学は多様な目標を実現するための充実した環境が豊富にあります。夢に貪欲でそして誠実に、一緒に人生を切り拓いていきましょう。皆さまの入学をお待ちしております。

国立台湾大学での高次臨床実習

アラブ首長国連邦大学での高次臨床実習



私は、1ヶ月間、アラブ首長国連邦（UAE）のTawam Hospitalで産婦人科の実習をさせていただきました。産科実習では、たくさんの方の分娩に立ち会い、内診や分娩の補助を行いました。妊娠合併症のある妊婦さんの管理についてもカンファや回診を通じて学ぶことができました。また、外科に興味があると話していたので、帝王切開がある時はすぐに呼んでいただき、婦人科実習では予定されているオペには可能な限り入り、術野で鉤持ちや縫合などを行いました。先生方はとても優しく、日本から来た私を快く迎え入れてくださり、たくさん指導してくださいました。日本と比較して、医療の水準にほとんど差はありませんでしたが、文化的な背景や人種の違いから、産む子供の人数や、気をつけるべき合併症の違いがあり、とても興味深かったです。週末は滞在していたアルアインの遺跡や資料館などの観光をしたり、最後の週はドバイに足を運んだりもしました。食事も、スパイスが効いた深みのある味がしてどれも美味しかったです。UAEでの実習を通じ、海外で働いてみたいという新たな目標ができ、将来の可能性が広がるとも良い経験となりました。これからも様々なことに挑戦していきたいです。

世羅 涼

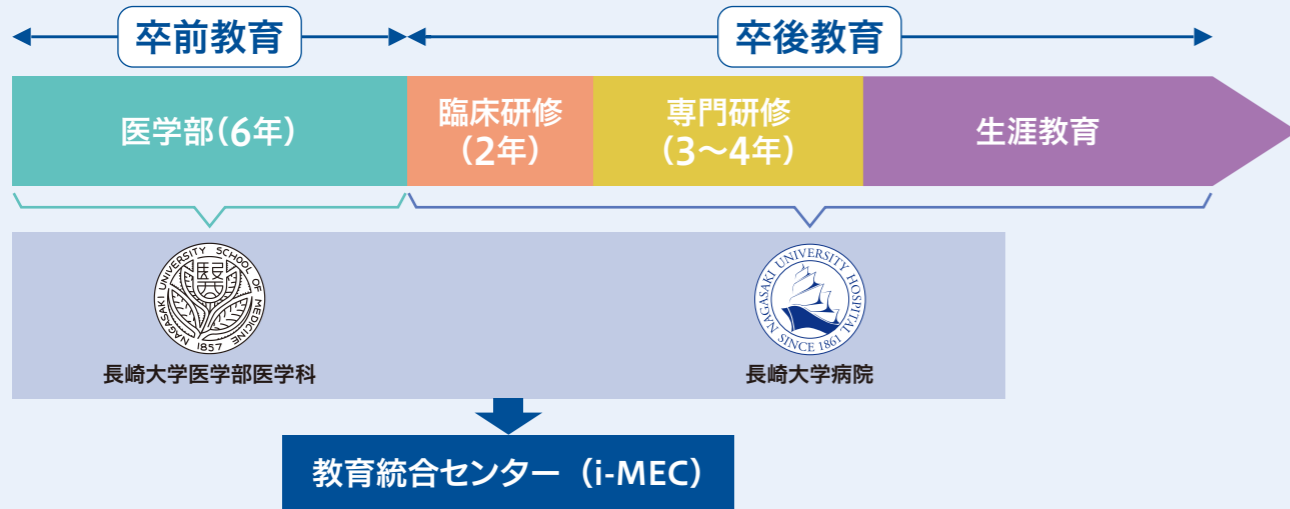
SERA Suzuka

令和元年度入学

- 留学先 アラブ首長国連邦 / アラブ首長国連邦大学
- 留学期間 2024年4月
- 留学目的 高次臨床実習
- 現在の所属 令和6年度卒業



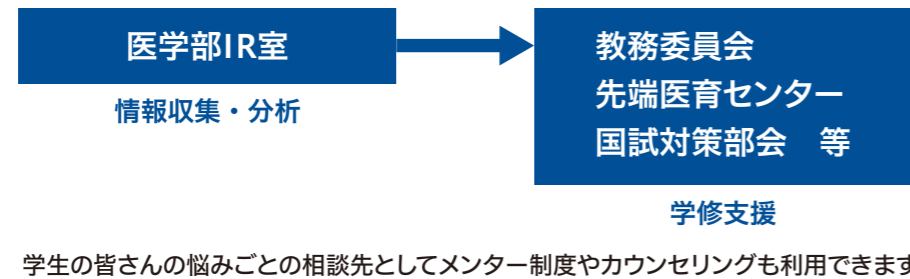
卒前・卒後教育の連携による教育体制の強化



長崎大学では、i-MECを基盤に、卒前教育～初期研修～専門研修における一貫した教育体制の構築を目指しています。初期研修の修了後、最先端の医療を行うスペシャリスト、地域医療を支える開業医や勤務医、医学研究者、国際医療協力、医系技官、行政の道など、それぞれの目標に向かって進みます。長崎大学は、皆さんの目標への道のりを全力でサポートします。

卒前・卒後の学修支援

医学教育の質の向上のために必要な情報の収集と分析を行う医学部医学科IR（Institutional research）室では、学生の皆さんの学修状況や生活の調査を行っています。調査結果をもとに、教務委員会、先端医育センターや国試対策部会等が連携して、6年間のカリキュラム修了と医師国家試験合格を目指した学修支援を行っています。



長崎大学医学部医学科 先端医育センターのご紹介



長崎大学医学部医学科 先端医育センターは、医学部の学生の皆さんの大学生活を幅広くサポートする部署です。

希望に胸をふくらませて入学してきた皆さんも、時には「この進路でよかったのか」「どうやって医学の勉強を進めればよいのか」といった悩みや不安を抱えることがあるでしょう。学修のことはもちろん、クラブ活動やプライベート、将来の進路まで——。どんなことでも、私たちは皆さんに寄り添い、一緒に考えながら、きめ細やかなアドバイスやサポートを行います。

また、医療を取り巻く環境は日々変化しており、それに伴って、医学教育も柔軟に進化していく必要があります。私たちは、学生の皆さんの声を積極的に取り入れ、教育の質の向上に役立っています。さらに、障がいや特性のある学生への合理的配慮を含めた支援にも力を注いでいます。

すべての医学科の学生が、気軽に訪れて相談できる——そんなセンターでありたいと思っています。ともに歩み、皆さんの成長をサポートすることが、私たちの役割です。医学科キャンパスで皆さんにお会いできるのを、心より楽しみにしています。

Voice

在学生、卒業生からのメッセージ

長崎で学ぶ 地域医療の魅力



長崎医療枠
小山 陽楽
KOYAMA Harura
医学部医学科 4年

私は地域枠で入学し、地域医療に関心を持って学んでいます。以前、医師が不在の日もある島に住んでおり、不安を感じた経験が地域医療を志すようになったきっかけです。島の多い長崎には課題も多くありますが、だからこそ課題解決に向けて、「モバイルクリニック」と呼ばれるオンライン機器を搭載した巡回診療車による遠隔医療や、ドローンを活用した処方薬配送など、全国に先駆けた先進的な取り組みが実際に行われています。こうした現場で活躍する先生方から直接講義を受け、最新のオンライン機器を自ら体験できる環境は、長崎大学ならではの魅力です。

また、地域枠では低学年のうちから平戸や五島といった地域医療の現場を訪れる機会もあります。現地では、先生方とバーベキューなどをしながら、親身に相談に乗っていただいたり、現場のリアルな声を伺ったりと、教科書だけでは得られない貴重な体験ができます。

地域枠の学生同士のつながりも強く、学年を越えた交流の中で、将来ともに長崎の地域医療を支えていく仲間ができると感じています。皆さんと一緒に長崎大学で学べる日を楽しみにしています。

唯一無二の学生生活 -県外学生の視点で-



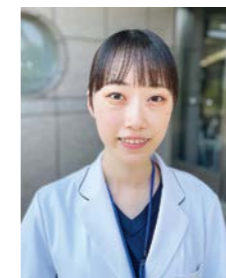
一般枠
佐瀬 光雄
SASE Mitsuo
医学部医学科 6年

長崎大学は、1857年オランダ人医師ボンベによって建学されて以来、西洋医学はもとより、次の世代の医師を育てようとする医学教育も受け継がれ、それが今も続いていると感じています。そのため、医師としてあるいは研究者として働かれている「先輩」方の愛情に囲まれながらのびのびと医学を学ぶことができている。

また、熱帯医学、離島医療、原爆医学や移植医療などで活躍されている先生方が多くいらっしゃり、そういった分野に低学年の頃から触れる機会が多くあることも長崎大学医学部の魅力の一つです。

新歓で部活やサークルに入り、バイトをしながら勉強に明け暮れ、最終的には国家試験に臨む。こうした学生生活はどの医学部でも同じでしょう。しかし、感染症分野で世界的に活躍する先生のお話を間近で聞いたり、五島でお魚を味わいながら訪問診療に同行したり、あるいは原爆の悲惨さを医学の観点で学んだりといった経験はおそらく長崎でしかつめないと私は思います。もちろん風光明媚な海や山々、和華蘭の文化が根付く街並みを巡ることも日々の楽しみになります。ぜひ長崎大学医学部に入り、一緒に唯一無二の医学部生活を送りましょう。

地元長崎の健康を支える医師を目指して



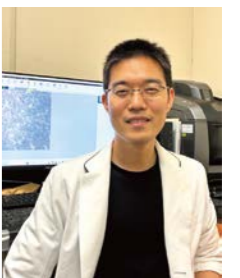
地域医療特別枠卒業生
浦野 あおい
URANO Aoi
医学部医学科
2025年度卒

私が選択した地域医療特別枠は、長崎県医学修学資金を利用して学費の自己負担なく進学できることが大きな魅力です。しかし、地域枠の良さはそれだけではありません。地域医療ゼミや離島実習を通してへき地医療の実情に触れることで、卒業後に働く環境や地域で求められる力について、学生のうちから理解を深めることができます。また、地域枠学生同士や先輩医師との交流の機会が多く、縦横のつながりを築けることも大きな強みです。

入学時から長崎の地域医療に従事するという目標が定まっていたからこそ、理想の医師像が明確になり、学生生活をより有意義なものにできたと感じています。私は、幅広い健康問題に対応できる力が必要だという思いから、総合診療ぶらいまりけあサークル「そぶら」を立ち上げ、臨床推論や家庭医療を学ぶ活動に取り組みました。また、グローバル（グローバル×ローカル）な視点をもって地域課題に向き合える医師を目指し、リサーチセミナーではドイツ留学にも挑戦しました。

長崎大学でのかけがえのない6年間を経て研修医となった今、改めて「地域の方から何でも相談してもらえる医師になりたい」という初心に立ち返り、日々研鑽を積んでいます。

長崎大学で広がった、学びと進路



研究医枠卒業生
安倍 優樹
ABE Yuki
医学部医学科
2014年度卒

私はAO入試（現研究医枠）で長崎大学へ入学し、1年生から法医学教室で研究について学びました。基礎・臨床医学に加えて研究にも触れることで、医学をさまざまな視点から考えられるようになったと感じています。また、研究成果を国内外の学会で発表する機会もいただきました。学会発表を通じて色んな場所を訪れることができたのは、とても楽しい経験でした。また、各地で出会った先生方の考え方に触れられたことも、自分にとって大きな学びになり、今の自分を形づくる大切な経験になっていると思います。

卒業後は2年間の臨床研修を経て法医学教室の大学院に進学しました。現在は同教室の職員として勤務しています。

研究医枠と聞くと、少し難しそうイメージがあるかもしれませんが、実際には先生方に支えていただきながら、自分なりのペースで少しずつ学んでいくことができます。長崎大学の研究医枠には、熱帯医学プログラムや法医学プログラム等があり、長崎大学ならではの特色ある分野に早くから触れられます。そうした経験を通して、自分に合った分野や、将来進みたい道を見つけていってもらえたらと思います。

長崎大学病院

長崎大学病院は、日本最古の西洋式近代病院「養成所」を起源としており、160年以上の歴史があります。医学教育における臨床実習の現場であり、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など様々な職種 of 医療従事者を養成する機関でもあります。

また、長崎県内唯一の特定機能病院として地域のために質の高い医療を提供する役割を担っており、研究面でも臨床研究中核病院として国際水準の臨床研究を実践しています。



充実した臨床実習プログラム

4年次に実施される共用試験に合格すると、医療系大学間共用試験実施評価機構より学生医 (student doctor) の認定証が発行され、臨床現場での実習が開始となります。長崎大学では、計68週にわたる臨床実習 (4-5年次の全診療科ローテーション型臨床実習、5-6年次の選択型高次臨床実習) で、診療チームの一員として医療の現場に参加し、プロフェッショナリズムや倫理観を育みながら、知識や技能の修得を目指します。

白衣授与式

共用試験合格により学生医 (Student doctor) と認められ、白衣が授与されます。



学生医として臨む臨床実習

熱意ある教員の指導のもと、実践的な診療経験を積み重ねます。



～卒業後に現場で活躍できる臨床研修医を目指して～

関連施設紹介

01 大学院医歯薬学総合研究科

医学は近年急速に進歩しましたが、病気の原因や治療法が明らかになった疾患はまだ一部に過ぎません。人間の体の仕組みや病気については今でも未解明のことが多く、これらの問題を解決し医学の進歩を支える医学研究が欠かせません。医学部医学科卒業生の多くは、医学研究者や高度専門医療人の道を目指して、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科に進学します。本大学院は、医学、歯学、薬学、保健学の4分野を統合した4年制 (医学系の場合) 医療系総合大学院で、医学科卒業生は医療科学、新興感染症病態制御学系、放射線医療科学及び先進予防医学共同の専攻に進学します。大学院在学中は、柔軟なカリキュラムのもとで各人の目指す研究に没頭し、医学研究のトレーニングを積み重ね共に研究者としての第一歩を踏み出します。修了後は博士 (医学) の称号を得て、一人前の研究者として世界で活躍する医療人を目指します。高度な研究能力と教育能力を備えた大学人の後継者育成も大学院の重要な使命です。本大学院は、世界で活躍する優れた医学研究者、高度専門医療人を多く輩出しています。なお、研究医枠の学生は、本大学院への進学が必須です。



02 原爆後障害医療研究所



長崎大学原爆後障害医療研究所 (以下、原研) は、原爆被爆者の慢性障害 (後障害) の治療や発症予防・放射線の人体への影響に関する医学部附属基礎研究施設として昭和37年に設置されました。以後、被爆者の治療・研究のみでなく、チヨルノービリ原発事故後や旧ソ連の核実験場であったカザフスタン共和国セメイ周辺での放射線障害の研究を各種国際機関と共に進めてきました。さらに福島原発事故後には、放射線健康リスク制御で中心的な役割を果たしています。原研は平成24年に設立50周年を迎えたのを契機に、平成25年には大学附置研究所へ改組しました。平成28年からは福島県立医科大学と「災害・被ばく医療科学共同専攻大学院」を設置し、高度な教育研究を展開しています。「国内外の大学・研究機関との連携の下、放射線健康リスク管理学を中心とした被ばく医療学を推進し、人類の安全・安心を担う専門家を輩出する」をミッションに、今後も被爆地長崎が被ばく医療の世界的拠点となるべく医療・医学研究を展開していきます。

◀原爆医学資料展示室 (長崎大学医学ミュージアム内)

03 熱帯医学研究所

人類は古くから感染症の脅威にさらされてきました。医学ならびに医療技術の発達した現代でも、エイズやマラリアなどいまだに克服されていない感染症は多く、新たなウイルスも日々出現しています。また地球温暖化や交通網の拡大・高速化などにより特定の地域で起きた感染症があつという間に世界中に広がります。長崎大学熱帯医学研究所（以下、熱研）は、熱帯地域を中心に蔓延する感染症の問題に向き合い、薬やワクチンの開発はもとより、環境や貧困問題などの原因を根本から考えて統合的な戦略を打ち出し、人々が助け合いながら感染症を克服する社会の実現を目指しています。2006年からはベトナムとケニアにて長崎大学アジア・アフリカ海外感染症研究拠点を運営し、感染症が発生流行する現場での臨床疫学研究と将来の研究を担う優秀な人材の育成に取り組んでいます。そこでは常駐の研究員と現地の研究者が協力して日夜研究を繰り返しています。熱帯医学に興味のある学生さんは気軽に熱研を訪ねてください。



04 高度感染症研究センター



出血熱などの致死率が高い感染症を起こす病原体を安全に取り扱い、有効な予防・治療法を開発するためには、高度な安全機能を備えた実験施設（BSL-4施設）が必要です。長崎大学高度感染症研究センターは、BSL-4施設を用いた感染症研究を推進することにより、人類に貢献することを目的としています。また、高度な感染症研究やバイオリスク管理を担う人材を育成することに努めます。

本センターは、2017年に設置された感染症共同研究拠点を前身としており、2022年4月から名称を新たにしました。また、全国の関連研究者の共同利用・共同研究拠点「新興感染症制御研究拠点」として文部科学省に認定されました。

諸外国のBSL-4施設を有する研究機関との連携を進めるとともに、全国の関連研究者のBSL-4施設を用いた研究活動も支援します。

入学料・授業料・奨学金制度

■ 入学料 …………… 282,000円

■ 授業料(年額) …………… 535,800円

※1 入学料については、免除(全額又は半額)及び徴収猶予の制度があります。
 ※2 授業料については、免除(全額又は半額)の制度があります。
 ※3 入学料及び授業料は改定される可能性があります。

■ 奨学金制度

1 日本学生支援機構の奨学金

	第一種奨学金(無利子)	第二種奨学金(有利子)
自宅通学	45,000円/30,000円/20,000円 いずれかを選択	20,000円~120,000円 (10,000円刻み)
自宅外通学	51,000円/40,000円/30,000円/20,000円 いずれかを選択	

3 各種奨学金

地方自治体、民間企業及びその他団体等が設けている奨学金制度があります。

2 長崎県医学修学資金貸与制度

(1) 貸与金額 令和8年度入学者：6年間の貸与総額(予定) 9,336,800円

	入学料	授業料	図書費	生活費	年間貸与学
1年次	282,000円	535,800円	—	840,000円(※1)	1,657,800円
2年次	—	535,800円	—	840,000円(※1)	1,375,800円
3~6年次	—	535,800円	200,000円	840,000円(※1)	1,575,800円

(※1)70,000円×12月

(2) 貸与利率 年14.5%

(3) 返還免除 卒業後、「履行すべき義務」を終えた場合に元金及び利息の返還が免除されます。

(4) 履行すべき義務 貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間(うち、離島・へき地に2分の1以上の期間)、知事が指定する医療機関等への勤務が必要です。

■ 諸納付金等(入学年度)

種別	金額	備考
学生教育研究災害障害保険	4,800円	6年間分
学研災付帯賠償責任保険(付帯賠償)	2,000円	4年間分
学研災付帯学生生活総合保険(付帯学総)	約60,000円	3年間分
医学部教育後援会費	60,000円	6年間分
医学部学友会費	15,000円	6年間分
長崎医学同窓会入会金	25,000円	6年間分
合計	約166,800円	

■ その他の納付金等

各種予防接種費……………約9,000円
 医学英語 e-ラーニング受講費……………約26,000円
 共用試験受験料……………53,000円(令和8年度)
 医師国家試験受験手数料……………15,300円(令和7年度)
 6年次国家試験対策(模試・参考書等)……………約100,000円

充実したキャンパスライフをサポートします

附属図書館医学分館



福利厚生棟(生協食堂)



体育館



グラウンド



テニスコート



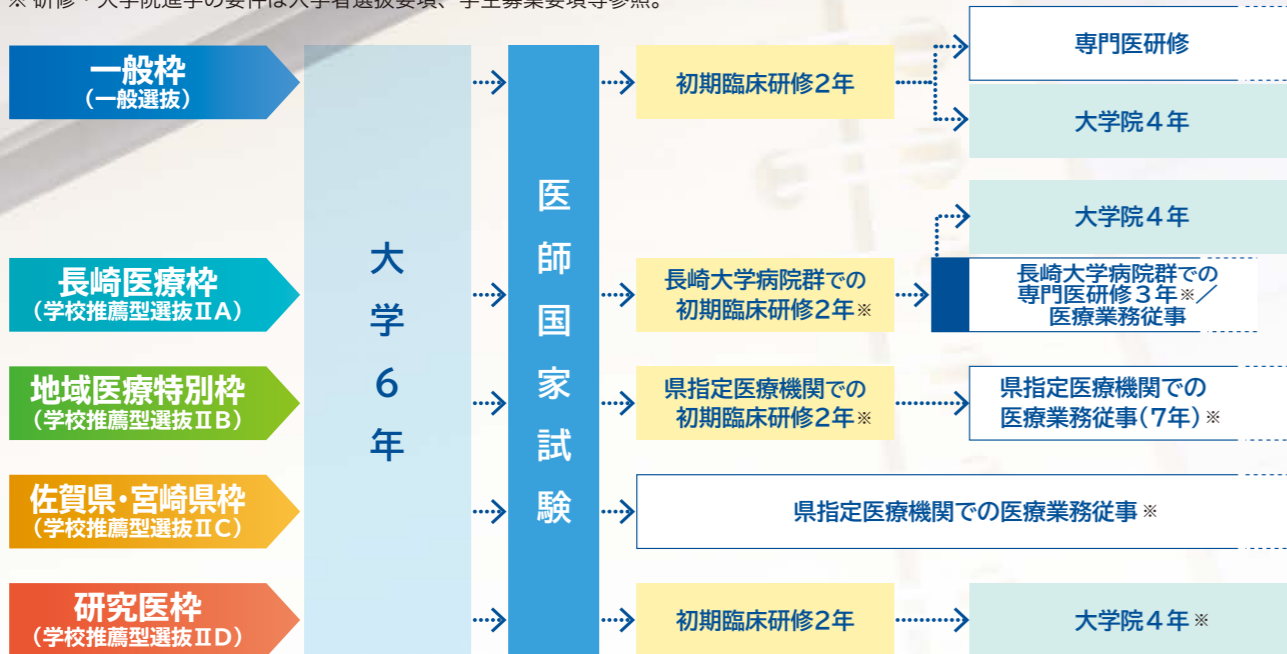
入試枠について

各入試枠の説明

一般枠 (一般選抜)	医学・医療分野に対して熱意と高い意志を持ち、この分野の職業に生涯にわたり従事するという明確な目的意識がある人を求めます。
長崎医療枠 (学校推薦型選抜II A) 地域医療特別枠 (学校推薦型選抜II B) 佐賀県・宮崎県枠 (学校推薦型選抜II C)	地域医療に興味があり、将来長崎県の地域医療を支えていくという強い意志を持つ人を求めます。長崎県医学修学資金の貸与を受けない長崎医療枠(学校推薦型選抜II A)と受ける地域医療特別枠(学校推薦型選抜II B)からなります。 卒業後、長崎医療枠では長崎大学病院群で2年間の初期臨床研修及び3年間医療業務に従事すること、地域医療特別枠(学校推薦型選抜II B)では長崎県が指定する医療機関で9年間研修・医療業務に従事することが条件となります。 また、佐賀県・宮崎県枠(学校推薦型選抜II C)では、佐賀県又は宮崎県が指定する医療機関に従事することが条件となります。
研究医枠 (学校推薦型選抜II D)	基礎医学研究等に興味があり、医学の発展に携わるとい目標とそれを貫く強い意志を有する人を求めます。 入学後は、以下の4つのプログラムのいずれか1つに所属し、医学研究に必要な基礎知識の習得や研究内容の発展を行い、将来の研究医に必要な基礎を築きます。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究医プログラム (基礎医学研究に貢献する者) ②熱帯医学プログラム (熱帯医学の基礎研究に貢献する者) ③国際保健プログラム (国際保健医療、放射線健康科学分野に貢献する者) ④法医学プログラム (法医学研究に貢献する者) 卒業後、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(医学系基礎研究分野)に進学することが条件となります。初期臨床研修後の大学院進学も可能です。

入学から卒業、大学院進学まで

※ 研修・大学院進学の要件は入学者選抜要項、学生募集要項等参照。



卒業後の進路

卒業生の多くは臨床医になります。義務である2年間の初期臨床研修、次いで専門医研修を経て一人前の医師になるトレーニングを積みみます。その他、基礎研究医(大学や研究所)、行政職に進む人もいます。長崎大学医学部医学科から政治家も輩出しています。

医師国家試験対策について

1 医師国家試験対策専門部会の設置
 医学科教員で組織された国家試験の対策に特化した専門部会を設置し、国家試験に係る分析・評価・企画・支援を行っています。

2 学生を班毎に編成した学習室の設置
 6年生には国家試験に向けて、24時間利用できる学習室を用意しています。集中して取り組むことができる一方、班のメンバーと切磋琢磨しながら情報交換や意識向上できる環境を整えています。

3 学習室へのメンター教員の配置
 各学習室には、学生自らが希望した教員をメンターとして配置し、メンターとなる教員は担当する学習室を訪問し、学習支援を行っています。

4 小人数や個人で使用できる自習室の設置
 班ごとに使用できる学習室とは別に、小人数や個人で勉強したい学生のために予約制の自習室を設置しています。

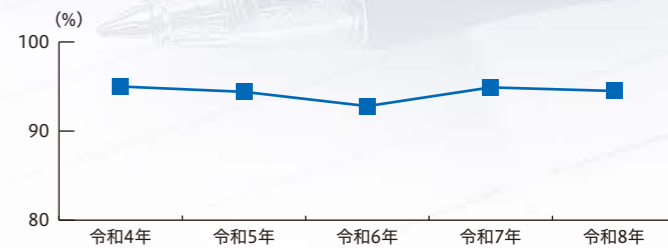
5 医師国家試験模試の一斉受験
 医学部医学科の教育後援会の補助により年3回の国家試験に係る模試を実施しており、学生らは自身の学力の状況を定期的に確認して試験勉強に活用しています。また、医師国家試験対策部会でも学生毎の学力の状況を確認し、適切な学習支援に活用しています。

6 学習状況に関するアンケート
 年4回学習状況に関するアンケートを実施し、結果を学生らにフィードバックすることで、学生自身がお互いの進捗を把握でき、国家試験勉強に対する意識向上を促しています。
 また、アンケートにより学生毎の学習や生活の悩みを把握し、医師国家試験対策専門部会で学生に応じた支援を行っています。



医師国家試験年別合格率

	長崎大学新卒者合格率
令和4年(116回)	95.0
令和5年(117回)	94.4
令和6年(118回)	92.8
令和7年(119回)	94.9
令和8年(120回)	94.5



新卒者(該当年度に卒業した学生)の合格率は、毎年94~95%前後で推移しています。

Club Activities

サークル活動



仲間と絆を深め、
目標に向かって
挑戦する。



体育系サークル

- 陸上競技部
- サッカー部
- フットサル部
- テニス部（硬式）
- ソフトテニス部
- 水泳部
- 漕艇部
- ウインドサーフィン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- バスケットボール部
- 卓球部
- 準硬式野球部
- バドミントン部
- 剣道部
- 弓道部
- ラグビー部
- ダンス部
- ゴルフ部
- ハンドボール部

文化系サークル

- 軽音楽部
- 室内合奏団
- 茶道部
- 美術部
- 園芸部
- FLAN
- 東洋医学研究会
- 長崎多職種連携・たまごの会
- 熱帯医学研究会
- 総合診療がらいまりけあサークル
- 麻雀サークル

坂本キャンパス1 長崎大学医学部

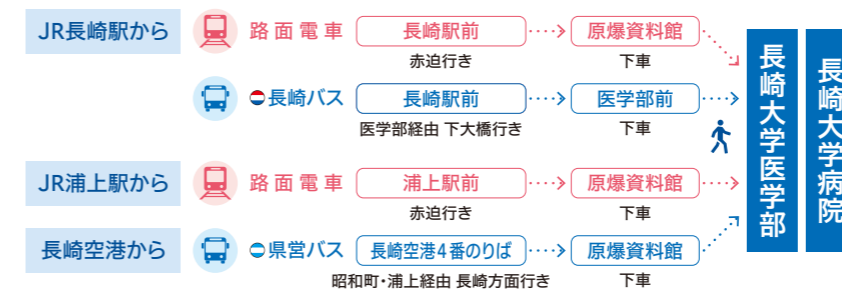


坂本キャンパス2 長崎大学病院



Campus Map

Access アクセス





医学部医学科についてのお問い合わせは

長崎大学医学部医学科 学務課

〒852-8523 長崎市坂本1-12-4

TEL.095-819-7010

<https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/med/>



2026年6月発行